

停滞感が漂う中、先行き不透明感が増大

4月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

一部業種で明るい兆しが見られるも、原材料価格の上昇や親企業によるコストダウン要請、需要の伸び悩み等により依然として停滞感が漂っている。また、慢性的な人手不足や企業間競争の激化等で先行き不透明感が増大している。

製造業	食料品		パンは人手不足の状態が続いており、人材確保が課題となっている。菓子は天候にも恵まれ、全体的に売上が増加している。製麺は大手が牽引し、全体的に好調となるも、業務用は自家製麺を使用するラーメン店の増加で需要が減少している。
	繊維・同製品		桐生織物は婦人服地が低調の中、夏物和装の出荷が比較的順調に推移している。伊勢崎織物の小巾織物は小口商いが中心となり関連業者は苦戦している。繊維製品はGW前の追加注文が伸び悩み、景況感の悪化傾向が続いている。
	窯業・土石製品		コンクリートブロックは原材料価格の上昇等で、製品価格の値上げが避けられない状況となっている。コンクリート製品は原材料価格が上昇する中、企業間競争の激化により、販売価格は低下傾向となっている。砕石は公共工事の発注が少なく、苦戦を強いられている。
	機械・金属		依然として原材料や燃料価格の上昇に加えて親企業からのコストダウン要請等が続き、先行きに対する不安感が増している。一方で、SUBARU関連を中心に自動車関連の高操業が続いており、雇用人員の確保等が課題となっている。
	その他の製造業		紙加工品は古紙価格の下落で原材料価格の上昇が一段落する中、宅配運賃が上昇傾向にあり、業界への影響を懸念する声が聞かれる。印刷は新年度で需要が増加するも、企業間格差が拡大する傾向にある。ゴムは横ばい状態の中、人手不足感が高まっている。
非製造業	卸売業		高崎卸は各社で来春に向けた採用活動が本格化している。前橋卸は一部で、新工場建設や店舗の建て替え等の積極的な設備投資の動きが見られる。農産物卸は春野菜の出回りにより野菜の品薄が解消傾向となるも、市場価格は高値で推移している。
	小売業		燃料小売は元売の経営統合による今後の価格動向を注視している。生花小売は民間斎場における生花持ち込み禁止の影響で、事業規模を縮小する事業所が散見される。商店街は一部でイベントによる集客効果があるも、景況感は総じて悪化傾向にある。
	サービス業		温泉旅館は全体では前年並みの入込数となる中、旅館ごとの入込数に格差が見られる。不動産取引は太田市域において、SUBARU関連の好業績や行政による積極的な企業誘致に伴う人口増加の影響で、住宅用・事業用物件の取引が活発化しており、地価も上昇している。
	建設業		解体工事は自治体の空家対策助成制度の充実で見積依頼が増加する一方、価格競争が激化している。電気工事は売上高・収益ともに安定的に推移している。塗装工事は前年並みの仕事量を確保し、適正な利益率を維持できる状況が続いている。
	運輸業		GWに向けた出荷が伸び悩み、荷動きは低調に推移している。半年にわたる燃料価格の値上がり傾向が一段落するも、依然として、今後の価格動向を注視している。小型運送は五月人形の配送や、遠方への輸送依頼が増加したことで売上が好転している。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 110.0(前月比▲2.0%)「県統計課・3月」
- 住宅着工戸数 1,180戸(前年同月比+11.4%)「県建築住宅課・3月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規2.23倍・有効1.64倍「群馬労働局・3月」
- 大型小売店販売額 205億円(前年同月比+2.5%)「経済産業省・3月」
- 消費者物価指数(全国) 99.9(前年同月比+0.2%)「総務省統計局・3月」
(鉱工業生産指数は22年=100とした指数・消費者物価指数は27年=100とした指数)